

第4章 豊かさを支える生物多様性保全の推進と快適な生活環境の確保

第1節 生物多様性を大切にしまちづくり

人間の生存基盤である環境は、豊かな生物多様性と自然の物質循環を基盤とする生態系が健全に維持されることで成立しています。また、生物多様性は、人間にとって有用な価値を持つとともに、快適な生活・豊かな文化を育む根源です。本市の豊かな自然や自然の大切さを市民一人ひとりが認識し、生物多様性の意義、価値に対する理解を深めるため、自然とのふれあいの場の創出を推進します。また、都市の機能と自然の機能が双方ともに発揮されるような都市と自然が共生するまちづくりを進めていきます。

1. 自然環境の現況

(1) 地形

本市は九州の最北端に位置し、関門海峡をはさんで本州と対峙しています。その広さは東西約33km、南北約34km、面積は約488km²で、福岡県の約10%を占めています。本市の大部分は、東部の企救山塊と中央部から南に延びる福智山塊などによって占められています。平野部は分離散在しており、臨海部低地には自然生成地は少なく、埋立地等の人工造成地が大半を占めています。

(2) 気象

本市は、瀬戸内海（周防灘）と日本海（響灘）に面して、その気候は瀬戸内海気候と日本海気候の中間的な傾向を示しています。年平均気温17℃程度、年間降水量1,800mm程度で地域により風向も異なりますが、一般的に冬季は西系の風が強く、春季から秋季にかけては南系の風が多く、夏は晴天も多いが湿度が高く蒸し暑い日が多くなります。

(3) 現況特性

ア. 植物と自然度

本市の植生はヤブツバキクラスの常緑広葉樹林に属し、自然植生はスダジイ群落、タブノキ群落、平尾台周辺のススキやネザサ群落などが代表的です。照葉樹、広葉樹の自然林などはサンコウチョウ、オオルリ、キビタキ、シジュウカラなどの野鳥の生息地となっています。

イ. 陸水域生態系の概況

本市には、一級河川の遠賀川を含む261河川が流れています。貯水池は、紫川水系のます淵ダム、道原貯水池等のほか約540の農業用ため池があります。公共水域の水質は、水質汚濁防止法による規制や公共下水道の整備に伴い、著しく改善されました。

本市は淡水魚類相が大都市圏としては比較的豊富で、鳥類相もかつては大きなダメージをうけていましたが、現在では数多く観察されています。

ウ. 沿岸域生態系の概況

本市は周防灘、関門海峡、洞海湾、響灘に面していますが、海岸線の多くは、埋立地や港湾として整備され、企業の生産活動の場や港湾物流の場として利用されています。沿岸域水域の水質は、水質汚濁防止法による規制や公共下水道の整備に伴い、改善されました。代表的な沿岸域である曾根干潟では、シバナなどの塩沼地性植物やズグロカモメなどの野鳥およびカブトガニなどが生育しています。

2. 重要種の確認

本市が保有する昭和43年（1968年）からの自然環境関連資料、国、県が発行している自然環境情報（レッドデータブック等）、北九州市立自然史博物館等の各機関発行の情報等を中心に、本市に生息・生育する貴重生物種に関する127冊の文献データの収集・整理を行ったうえで、市民・市民団体、専門家に対する生息確認等のアンケート調査、さらに現地補足調査を行いデータの更新を図りました。

このデータから平成3年以降の情報を抽出したものが次の結果です。

分類	和名	種数
維管束植物	アギナシ、オキナグサ等	29
藻類	オトメフラスコモ、シャジクモ	2
ほ乳類	カヤネズミ、ニホンアナグマ等	5
鳥類	クロツラヘラサギ、ハヤブサ等	47
は虫類	アカウミガメ、タカチホヘビ等	6
両性類	カスミサンショウウオ、ニホンヒキガエル等	7
淡水魚類	イシドジョウ、カゼトゲタナゴ等	21
昆虫類	アサカミキリ、クモガタヒョウモン等	10
甲殻・貝類等	カブトガニ、シオマネキ、ナカヤママイマイ等	55
計		182

3. 「曾根干潟保全・利用計画」の策定と実施

本市では、平成11年3月に「曾根干潟保全・利用計画」を策定し、「自然環境と人間活動の共生」を理念として、曾根干潟の環境に配慮しながら干潟を利用することと

しました。また、干潟の保全及び状況の把握のため、平成7年度より曾根干潟の環境調査を実施しています。

今後も、本計画に基づき、曾根干潟の環境の保全に努めるとともに、利用においては、干潟環境への配慮を求めています。

4. 北九州市生物多様性戦略の推進

(1) 北九州市生物多様性戦略の策定

平成17年9月に策定した、政令市初の自然に関する基本計画である「北九州市自然環境保全基本計画」を平成22年11月に改訂したものです。計画の構成などの基本的な骨格を維持しながら、新たな課題や施策などを取り入れ、「生物多様性基本法」（平成20年）に基づく「生物多様性地域戦略」として策定しました。

「都市と自然との共生」（都市のなかの自然・自然のなかの都市）を基本理念に下記の「5つの目標」と「5つのリーディングプロジェクト」で施策を展開しています。

- ① 多様な自然環境の保全 → 地域固有の生態系の保全と利用
- ② 市民が育む自然 → 自然環境に精通した人材の育成
- ③ 身近に自然を感じる都市づくり → 響灘・鳥がさえずる緑の回廊による響灘埋立地の緑の創成
- ④ 市民と自然とのふれあいの推進 → 里地里山の持続的な利用
- ⑤ 自然・生物に関する情報の整備 → 自然環境調査の実施とデータベースの構築

(2) 北九州市自然環境保全ネットワークの会（自然ネット）

同戦略は、パートナーシップの考えのもと、市民、NPO、学識経験者、事業者及び市で構成された「北九州市自然環境保全ネットワークの会（通称「自然ネット」）」が、進行管理しています。自然ネットは、平成18年5月20日の発足以来、35のNPO・市民団体、151人の北九州市自然環境サポーター、12人の学識経験者、15の事業者の参加を得ています。

平成26年度は、著名人による講演会の開催（協力）等の「学習」、エコツアーの開催や応援等の「実践活動」など多岐にわたった活動に取り組み、約2,000人の方々が参加しました。

今後も、自然ネット

自然ネット総会
H26.7.24



を母体として同戦略の推進、進行管理に当たることとしています。

自然講演会
（講師は岩松文代氏）
H26.7.24



5. 響灘・鳥がさえずる緑の回廊創成基本構想

(1) 背景

本市では、産業用地である若松区響灘埋立地区において、自然の創成を図り、産業と自然との共生を目指す「響灘・鳥がさえずる緑の回廊創成基本構想」を平成17年6月に策定しました。

本構想は、現在緑が少なく広大な空間（約2,000ヘクタール）が広がる響灘埋立地に、市民・NPO、団体、事業者、市が連携して、自然の創成や自然とのふれあいの場の創出などを図ることとしています。

(2) 今までの取組と成果

具体的な取組として、市民や企業の協力を得て、石峰山から響灘安瀬緑地につながる緑の軸線（公園や道路沿線の緑地）を整備する「緑の回廊づくり」と同構想全体の中核的な事業として、拠点となる緑地を整備する「緑の拠点づくり」があります。

ア. 「緑の回廊づくり」

構想策定後、「緑の回廊づくり」を進めるため、市民、事業者、行政が協力して、どんぐりの種から苗木を育てる仕組み「響・どんぐり銀行」を組織して、数年後に苗木の提供が始まる仕組みづくりを行っています。

平成17年度から、地元若松区の赤崎小、小石小が参加して、どんぐり拾いと苗の育成を開始し、更に、地元の企業7社やNPO1団体に協力してもらい、苗の育成も始まりしました。

平成26年度には、地元小学校8校が参加、更に、育苗に、小学校7校、13事業者、NPO等4団体の他、市民も参加し、活動の裾野が広がってきています。

そして、「緑の回廊づくり」の取組の一つとして、平成18年3月には、市民、NPO、団体、企業、市が協働して、国道495号沿道にシイ、カシ、クヌギなど苗の植栽を行う「鳥がさえずる緑の回廊植樹会」が、九州電力（株）の創立50周年事業「九州ふるさと森づくり」と併催で行われました。（5,000本）

植樹会は平成26年度までに10回開催され、105,000本を植樹しました。平成26年度は向洋町の国道495号



Chapter 4 豊かさを支える生物多様性保全の推進と快適な生活環境の確保

沿いに 11,000 本の植樹を行い、参加者数も約 1,500 人（初年度約 250 人）と大幅に増え、活動の裾野が広がってきています。



赤崎小学校によるどんぐりポットづくり H24.2.7

小石小学校から育苗協力企業への苗贈呈式 H19.3.1

◆響・どんぐり銀行 育苗参加企業・団体（順不同）

九州電力 (株) 北九州支社
NS プラント設計 (株)
日本通運 (株) 北九州支店エコタウン事業所
日本コークス工業 (株) 北九州事業所
楽しい (株)
グリーンパーク
NPO 法人北九州ピオトープ・ネットワーク研究会
イオンモール八幡東
イオン若松ショッピングセンター
西日本コンピュータ (株)
ひびき灘開発 (株)
玄海青年の家
積和建設九州(株)北九州事業所
西日本家電リサイクル (株)
九州共立大学
JM 活性コークス (株)
大日本印刷 (株)

イ.「緑の拠点づくり」

「緑の拠点づくり」では、平成 17 年度に緑地整備の基本計画を策定しました。さらに平成 24 年 10 月 6 日には「響灘ピオトープ」がオープンし、一般市民を対象に豊かな自然を見て触れて感じてもらうことができるようになりました。

(3) 今後の取組

今後は、本構想に基づき 30 万本のどんぐり苗の植樹を目標に、響・どんぐり銀行と並行して植樹会を進めていきます。



鳥がさえずる緑の回廊 植樹会 (H27.3.28)

6. 環境首都 100 万本植樹プロジェクト

(1) 目的

「環境首都 100 万本植樹プロジェクト～(愛称) まちの森」は、環境モデル都市の第 1 号の取組として、平成 20 年 10 月 4 日、環境首都シンボルイベントである「エコスタイルタウン」で、記念となる 1 本目が市長から赤ちゃんに手渡され、スタートしました。

本プロジェクトでは、“みんなで植えれば 100 万本!”を合言葉に、市民・企業・NPO・行政などさまざまな主体が、市内各地に植樹を行っています。

プロジェクトの推進組織として、スタートと同時に、市民、企業、NPO、行政などからなる「みどりネット」(みんなでどこかで りよっかネットワーク)を併せて創設しました。



プロジェクトスタート時のイベント

(2) 成果

平成 26 年度(平成 27 年 3 月末時点)は、128,260 本もの苗木が市内各地に植樹されました。

【主な取組】

■市民の取組

・わたし記念日

記念樹配布事業を実施し、市から希望者に配布された 1,000 本が、各家庭で植樹されました。



■企業の取組

ひびきエル・エヌ・ジー(株)で 94,800 本、ひびき灘開発(株)で 8,700 本、イオンタウン黒崎で 2,500 本が植樹されました。



■ホームページでの情報発信

まちの森のホームページ (<http://www.machinomori.com>) を開設し、各団体・企業の植樹活動や植樹関連イベントを紹介し PR しました。



7. 自然環境保全活動支援事業

平成 18 年度から市民の自主的かつ継続的な活動を推進するため、市民団体等が行う自然環境保全活動やその啓発活動に対して活動費用の一部を助成しています。

平成 26 年度は 11 団体に助成を行いました。



緑の回廊づくり



市民による植樹活動



森づくりの指標：安瀬の森



緑に囲まれた工場立地環境づくり



イメージ図



響灘ピオトープ